

Takken News



国内最大の不動産ネットワーク
宅建協会

No.187
2023冬



箱崎八幡神社

表紙写真



箱崎八幡神社（出水市）

島津家始祖忠久が初めて鎌倉より山門院野田へ下向の途、筑前博多の沖で乗船が逆風により難破しそうになった際、筥崎宮（日本三大八幡宮）に請願して難を免れ、無事山門院荘之浦に着船できたことから、野田に勧請したと伝えられています。文明の頃、現在の地に遷したといえます。

御祭神は誉田和命(応神天皇)、息長足比賣命(神功皇后)、高良玉垂命（武内宿禰）。

鶴の里出水らしく、大きな二羽の鶴が迎えてくれます。神門には鶴の親子の舞いを浮き彫りにした日本一の大鈴（高さ4m、直径3.4m、重さ5t）があります。

平成10年に伊勢神宮鎮座2,000年、天皇陛下ご即位10年、神社庁設立50年の記念事業として「為せば成（鳴）る大願成就の鈴」として制作されました。

また愛子さまご誕生を記念して建立された宝物鈴殿には、日本一小さな鈴が納められています。



（撮影：広報部 森本部員）

CONTENTS

新年のご挨拶（中馬会長）	3	研修会（法令情報含む）	8～9
誰もが安心して暮らし、 活躍できる鹿児島を目指して （塩田知事）	4	新入会員等研修会、開業支援セミナー、 宅建試験報告	10
新年賀詞交歓会	5	統計情報、ホームページ情報	11
理事会・幹事会	6	支部だより	12～18
三役・部長・委員長・支部長合同会議、 公取Q&A、令和4年秋の叙勲	7	主な会務報告	18
		新入会員・退会会員・各種お知らせ	19



新年のご挨拶

(公社) 鹿児島県宅地建物取引業協会
会長 中馬 敏夫

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症に翻弄され、すでに3年が経過いたしました。未だに終息の兆しは見えませんが、だいぶ以前の生活に戻りつつあります。人間の適応能力の凄さに感心しているところでもあります。

しかしながら、ここ3年で世界は一変し、短期間に劇的な変革を求められており、企業のあり方、経営戦略、ESGの取り組み、消費者ニーズなど様々な分野で対応を強いられているのも現状です。

また、いわゆるコロナショックや原油高によって世界的な資源や物価の高騰、供給網の混乱、更に円安も加わり、我々、不動産業界も大きく打撃を受けているところです。

そして、2030年には温室効果ガス排出量を2013年比で46%削減、2050年に完全なカーボンニュートラルを実現することを日本の目標に掲げ、取り組んでいます。そのような脱炭素社会やSDGsへの取り組みも不動産業界全体として未来へ向けた前向きな取り組みを推し進めることが重要だと考えております。

さて、鹿児島県宅地建物取引業協会では、昨年から申しておりますようにハトサポBBを浸透させて参りたいと思っております。全国宅地建物取引業協会連合会の会員支援サイト「ハトサポ」を通じて宅建協会会員皆様の不動産業務デジタル化・DX化を入口から出口まで一気通貫でサポートするための新たな不動産情報流通システムです。会員間の絆を深め新たな不動産情報流通マーケットの創出を目指します。

更に、昨年5月に施行された「デジタル社会の形成を図るための関係法律の整備に関する法律」により、宅地建物取引業では「重要事項説明書」「契約締結時書面」「媒介契約締結時書面」等の書面の交付について、相手方の承諾を得て電磁的方法で行うことが可能となりました。そこで「ハトサポ」では、宅建協会会員が電子契約に対応できるように電子契約システム「ハトサポサイン」を提供しておりますので、ご活用ください。

また、昨年のご挨拶でも申しましたが、政府の規制改革会議や規制緩和の要望活動の活発化により、銀行業界の不動産業界への参入が意欲的になっています。こちらも引き続き断固として反対して参ります。

昨年の最後に日本中を感動の渦に巻き込んだサッカーの森保ジャパンのように、チームワークを大切にこれから10年先、そして次の世代まで残っていく会員の皆様一人ひとりのために、皆様のお力をお借りしながら一歩先を見据えた協会運営に努めて参りたいと思っております。

この新しい年がブラボーとなるよう心より祈念いたしまして年頭の挨拶とさせていただきます。



誰もが安心して暮らし、 活躍できる鹿児島を目指して

鹿児島県知事 塩田 康一

皆様には、お健やかに新年を迎えられたことと存じます。本年もよろしくお願い申し上げます。

鹿児島県宅地建物取引業協会におかれましては、日頃から、宅地建物取引業の適正な運営及び宅地建物の円滑な流通に御尽力いただきますとともに、県政の推進に格別の御理解・御協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

また、空き家対策や災害時における被災者や要配慮者に対する住宅確保等の支援など、多岐にわたる取組を積極的に展開されていることに、深く敬意を表します。

宅地建物取引業界を取り巻く情勢につきましては、行政及び民間の各種手続に係る国民の負担軽減及び利便性向上を図るため、令和4年5月に改正宅地建物取引業法施行令等が施行され、重要事項説明書及び契約締結時書面における宅地建物取引士の押印が廃止されたほか、相手方の承諾を得た上で、重要事項説明書等を電磁的方法を用いて交付することが可能となりました。

また、県におきましては、少子・高齢化や人口減少の進行等による空き家の増加が社会問題化していることなどを踏まえ、市町村の空き家対策を促進しているところです。具体的には、専門家の受け入れや学生と住民によるワークショップの開催、情報発信等を通じて、空き家を活用した地域活性化等に取り組む市町村を支援しており、貴協会におかれましては、こうした国や県の取組に御理解・御協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

昨年、本県では、新型コロナウイルス感染症の爆発的拡大に加え、不安定な海外情勢や急激な円安などによる原油価格・物価の高騰に伴い、県民の皆様の暮らしや県内産業は大きな影響を受けました。また、9月に発生した台風第14号や集中豪雨による住家、公共施設等の被害や、相次ぐ高病原性鳥インフルエンザによる養鶏農家の被害なども多く発生しました。

その一方で、2月には、霧島神宮が国宝に、鹿児島神宮が国の重要文化財に指定され、10月には、過去最多となる41道府県が参加し、30万人超の来場者でにぎわった第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会において、本県代表牛が和牛日本一の栄冠に輝くなど、数々の明るい出来事もありました。

今年は、7月に「2023かごしま総文」、10月に「燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会」が開催されます。これらの機会に本県を訪れる皆様を心のこもったおもてなしでお迎えし、県民の皆様はもとより全国の皆様にとっても思い出に残る希望に満ちた素晴らしい大会となるよう、着実に準備を進めてまいります。また、この好機を生かし、和牛日本一の鹿児島黒牛はじめ多彩で豊富な食材や世界自然遺産の屋久島及び奄美大島・徳之島はじめ多様で豊かな自然など、本県の持つ多彩な魅力の積極的な広報・PRにも努めてまいります。

私としては、今後の県勢発展の基盤をしっかりとつくっていくためには、本県の基幹産業である農林水産業、観光関連産業の更なる振興や製造業の競争力の強化、新産業の創出に取り組み、本県の「稼ぐ力」の向上を図る必要があると考えております。今後とも、「誰もが安心して暮らし、活躍できる鹿児島」を目指し、「県民の皆様と一緒に鹿児島の今と未来をつくる」ということを基本として、誠実に、着実に県政の推進に全力を挙げて取り組んでまいりますので、皆様の一層の御支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

年頭に当たり、鹿児島県宅地建物取引業協会の御発展と皆様の御多幸、並びに御健勝・御活躍を心よりお祈り申し上げます。